

1. 鳥羽市と伊勢志摩国立公園

- ・鳥羽市はほぼ全域が国立公園に指定されており、人々の暮らしとともにある国立公園
- ・ミキモト真珠島などのレジャー施設だけでなく、神明神社や海の博物館、相差海女文化資料館などの文化観光施設があるのが特徴。
- ・昭和52年11月に国際観光都市に指定
- ・令和4年12月にゼロカーボンシティを表明



2. 鳥羽市でのゼロカーボンパークの取組

① サステナブルな観光地づくりの推進

- ✓ 鳥羽水族館における地域産再エネの活用、高効率空調やLEDの全館導入、電動車の活用
- ✓ 鳥羽一番街内のテナントフロア天井、各飲食店、通路などの共有スペース、事務所などに2800台のLED照明、高効率空調設備の導入を行い、年間の消費電力量約62%を削減
- ✓ 「鳥羽市エコツーリズム推進協議会」を中心に積極的にエコツアーを推進【以下、主な取組】



▲鳥羽水族館



▲シーカヤック体験

- ・カヌー、シーカヤック、無人島探検ツアー、シュノーケリング、離島の様々な歴史資源を巡る町歩き、海女小屋を活用した海女生活や食の体験ツアー、離島での生活体験、干物作り体験など

Zero Carbon Park Toba ～伊勢志摩国立公園の脱炭素ドミノ～



※令和6年2月27日時点

②環境問題への意識啓発

- ✓ 鳥羽水族館において、水族館ならではのメッセージ性のある企画展示会などの開催を通じて普及啓発
- ✓ 市内の一部のホテルにおいて、使い捨てプラスチックを減らす取組を進めており、宿泊客に脱プラスチックを啓発する機会を創出し、当該取組を地域全体へ展開
- ✓ 漂着ごみをはじめとする環境問題をより多角的に触れる機会を創出するとともに、参加型で解決を目指すべく、地域ごとのごみ拾い活動の様子や成果を可視化するSNSピリカやタカノメ自動車版を導入



▲市内のごみ拾い活動の状況が分かるSNSのタイムライン

③産官学連携による地域脱炭素の取組

- ✓ 「海のシリコンバレー構想」を掲げ、産官学連携による海洋DXの推進による藻場・干潟等の海洋生態系における「ブルーカーボン」への取組を推進

【以下、主な取組】

- ・民間企業と連携して藻場の実態調査などに取り組む
- ・市内の漁場や養殖現場でIoTを活用した海況観測器によるデータ取得や、海の磯焼けによる藻場の減少・生態変化について、新たな観測機及び水中ドローンから得られる水中画像の解析による炭素貯留量の自動算出に取り組む



▲「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」協定締結式



▲観測機



▲水中ドローン

Zero Carbon Park Toba

～伊勢志摩国立公園の脱炭素ドミノ～



※令和6年2月27日時点

④ 低炭素、環境に配慮した交通網の利用促進

- ✓ 観光施設が近鉄鳥羽駅付近に集積している利点も活かし、「ゆっくりめぐろう」をキャッチコピーに、鳥羽市の公共交通の情報を集めた「とばマップ」を市HPで周知し、観光における公共交通の利用を促進
- ✓ 離島との人の移動や物流、緊急医療など見据えドローンを活用した「空飛ぶクルマ」の実証実験を鳥羽市の鳥羽マリナーミナルにて実施



▲かもめバス



▲実証実験用ドローン

⑤ その他の取組

- ✓ 計画的な公共施設への太陽光発電の導入、市民向けの太陽光発電導入補助事業の実施
- ✓ 森林から出る残材や宿泊施設から出る生ごみなど地域資源を活用した地産地消バイオマス発電の導入可能性調査を実施
- ✓ 電気自動車の充電スタンドを市内16ヶ所に整備

3. 環境省における対応

- ・中部地方環境事務所による伴走支援を進め、鳥羽市の地域脱炭素化等の取組を後押し